第５次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物

The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

チョウセンヤマアカガエル

Rana uenoi Matsui, 2014

竹中践（東海大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会　爬虫類・両生類分科会

環境省 編

令和８（２０２６）年３月

特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：竹中践，2026．チョウセンヤマアカガエル．環境省（編）第５次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 501-505．

Citation: Takenaka, S., 2026. *Rana uenoi* Matsui, 2014. *In*: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 501-505.

無尾目 Anura　アカガエル科 Ranidae

チョウセンヤマアカガエル

***Rana uenoi* Matsui, 2014**

カテゴリー判定結果　絶滅危惧ⅠB類（EN）　B1ab

基準 A:　—	基準 B:　EN	基準 C:　—	基準 D:　—	基準 E:　—

B1．出現範囲が 5000 km²未満であると推定されるほか、次の兆候が見られる。
a) 生息地が過度に分断されているか、5 以下の地点に限定されている。
【過度に分断】
森林伐採や河岸の人工的整備、水田放棄などによる生息環境の悪化、丘陵の谷開口部の舗装道路の建設、土地開発による繁殖地の消失等によって、本種の生息に適した環境が分断している。
【地点数】5 地点以下
b) 出現範囲、生息地面積、生息地の質、生息地点数、成熟個体数のいずれかに継続的な減少が推定・予測される。
【判断理由】
河川改修や沢周辺の土地造成などによって、繁殖場所と生息環境が悪化しており、繁殖がみられなくなった地点がでてきている。現況で繁殖が見られる場所でも側溝の水たまりでかろうじて繁殖できている地点があり、今後も繁殖地の減少が予測される。

評価分科会：　爬虫類・両生類分科会

概要

本種は、中型のアカガエルで、雄の頭胴長は 52～64 mm、雌は 58～84 mm。小河川、沢、池といった水域周辺の林床や草むらに生息し、春に繁殖する。繁殖場所は、沢沿いや湿地の止水、水田や林道わきの水たまりで卵塊が付着して卵塊群となる。変態上陸後の生活はよくわかっていない。河川改修などにより、繁殖場所が減少してきている。

協力者:　松尾公則（長崎女子短期大学）

基礎情報

【形態】

オスは体長 52～64 mm、メスは体長 58～84 mm でメスのほうが大きい。ヤマアカガエルに似ているが、外蹠隆起はないことが多く、鼓膜は一般に大きくて、その直径が眼径の 2/3 に等しいかあるいはそれよりも大きいのを原則とする。左右の上眼瞼の間隔は比較的広く、左右の外鼻孔の間隔よりは狭いが、普通は上眼瞼の幅に等しい。褐色の体色は同所的に分布するツシマアカガエルと似ているが、ツシマアカガエルより大型で、鼓膜が眼よりやや小さい程度。鳴嚢をもつことや隆起状の背側線が大きく曲がらないことでも区別できる。染色体数は 24 本。

【生活史】

産卵期は 2～4 月で、湿地や河岸、林道脇の水たまり、浅い池、水田や畑の水路のよどみなどの止水域に球形に近い卵塊を産む。幼生期や変態上陸後の幼体、成体の生活は、他のアカガエル類と同様と考えられるが、あまり調査されていないので、成熟年齢等の生活史に関する情報は少ない。

【生息環境】

平地から山地に広く分布し、山間の沢周辺の林床や丘陵や平地の湿地、水田周辺の草地など多様な環境に生息する。緩い流れがあることもあるが、基本的に止水の水たまりや湿地で繁殖する。

生息環境区分：	【陸域_中標高地 低標高地】森林，草地，湿地・湿原・細流，河川上流域，河川中流域 【陸域_平地部】森林，草地，湿地・湿原，河川中流域，河川下流域，農業用水路，小河川
国土地域区分：	（1）奥山自然地域，（2）里地里山・田園地域，（4）河川・湿地地域，（7）島嶼地域

【分布域】

対馬に分布し、国外では朝鮮半島に分布する。

現在の生息状況

【分布域の現況】

対馬における本種の分布域は上対馬と下対馬の全域であったが、近年は下対馬での確認記録が得られていない。現在の繁殖場所の多くは、上対馬の北部地域に偏っている。

【生息地の現況】

本種が生息する丘陵地周辺の森林と草原、湿地が混在する地域は、河川改修や圃場整備など、人の生活と密接に関係した環境改変が継続している。いずれの開発行為も治水対策が重要な要素となっており、アカガエル類が繁殖する湿地が減少する傾向を生じる要因となっている。過去には本種が繁殖場所として利用していた耕耘前の水田や潅水用水路が水

路整備等により乾田化が進み、本種が利用できる条件はほぼ消滅した。現在の繁殖場所は河岸域の水たまり、廃田湿地、道路建設後の残存湿地といった場所で、地点数は少ない。また、河川改修による河岸の止水域の減少も本種の繁殖地の減少を生じている。

【個体数の現況】

アカガエル類は成体の目視・捕獲による個体数調査はかなりの労力を必要とするが、早春に繁殖する場面での繁殖地出現個体や卵塊数のカウントによって相対的な個体数密度を推定できる。対馬での継続的なアカガエル類の個体数や繁殖の調査はないが、2021 年 3 月に行った現況調査で、ツシマアカガエルの繁殖地が 31 カ所確認できたのに対してチョウセンヤマアカガエルの繁殖地は 14 カ所であった。ツシマアカガエルは、その後も繁殖が初夏まで継続した。チョウセンヤマアカガエルの繁殖場所は、廃田の残存水路や道路建設で分断された湿地など、安定的とは言えない環境が多かった。今回の現況調査で確認できた産卵後の卵塊数は約 470 で、情報のある地点を広域に回ったことから、すべての繁殖地を把握できていないとしてもアカガエル類としては少ない数値といえる。卵塊数を成体メスの個体数と考えると単純な推定では 1000 個体程度の成体数になっている可能性もある。

存続を脅かす要因

森林伐採や河岸の人工的整備、水田放棄などによる生息環境の悪化、丘陵の谷開口部の舗装道路の建設、土地開発による繁殖地の消失、侵入したヌマガエルやトノサマガエルの影響が懸念される

要因の区分：	（過去）	森林伐採，河川開発，湿地開発，圃場整備，土地造成，交通インフラ建設
	（現在）	森林伐採，河川開発，湿地開発，圃場整備，土地造成，交通インフラ建設，競争/競合（外来種による）

特記事項

本種は東アジアに分布するアカガエル類の中でもっとも絶滅危惧の程度が高いと推察できる。対馬に固有のツシマアカガエルは、繁殖期がやや長いことで湛水後の水田環境も繁殖に利用できており、絶滅危惧の程度は相対的に低い。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第４次 2020：	チョウセンヤマアカガエル	*Rana uenoi*	NT
第４次 2019：	チョウセンヤマアカガエル	*Rana uenoi*	NT
第４次 2018：	チョウセンヤマアカガエル	*Rana uenoi*	NT
第４次 2017：	チョウセンヤマアカガエル	*Rana uenoi*	NT
第４次 2015：	チョウセンヤマアカガエル	*Rana dybowskii*	NT

第４次:	チョウセンヤマアカガエル	*Rana dybowskii*	NT
第３次:	チョウセンヤマアカガエル	*Rana dybowskii*	NT
第２次:	—	—	—
第１次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和６年度末時点）

【長崎県】絶滅危惧ⅠB類(EN)

保護に係る法令指定状況（令和７年度末時点）

指定なし

参考文献

- 松尾公則，2005．長崎県の両生・爬虫類．長崎新聞社，長崎．155pp.
- 松尾公則・富樫忠士・三谷奈保・藤田有希，2004．長崎県の壱岐・対馬に侵入したヌマガエル（講演要旨）．爬虫両棲類学会報，2004: 61-62.
- 三谷奈保・戸田光彦・萩野伊万里・玖須博一・野田一男・松尾公則，2009．対馬における 5 年間のヌマガエルの分布拡大（講演要旨）．爬虫両棲類学会報，2009: 86.
- 日本爬虫両棲類学会（編），2021．新日本両生爬虫類図鑑．サンライズ出版，彦根．232pp.
- Uéno S-I., and Y. Shibata, 1970. A brief account of the herpetology of the islands of Tsushima. Mem Nat Sci Mus. Tokyo, 3: 193-198.
- 浦田明夫・山口鉄男，1976. 対馬の両生類，長崎県生物学会（編）．対馬の生物，pp. 261-264．長崎県生物学会，長崎.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Rana uenoi has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Rana uenoi* is listed as EN under criteria B1ab.

B1. Extent of occurrence estimated to be less than 5,000 km², and estimates indicating at least two of a-c:

a. Severely fragmented or known to exist at five or fewer locations.

b. Continuing decline, observed, inferred or projected, in any of the following:

(i) extent of occurrence

(ii) area of occupancy

(iii) area, extent and/or quality of habitat

(iv) number of locations or subpopulations

(v) number of mature individuals	
Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Mid-altitude area, Low-altitude area】Forest, Grassland, Wetland/Marsh/Stream, Upper river basin, Middle river basin 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】Forest, Grassland, Wetland, Middle river basin, Lower river basin, Agricultural ditch, Small river
Threat types:	Logging and wood harvesting, River development, Wetland development, Field preparation, Land development, Transportation infrastructure construction, Competition (with alien species)
Law designation status for conservation	—



©竹中践（東海大学）



©髙橋洋生（自然環境研究センター）

執筆者:	竹中践（東海大学）
Author:	Sen Takenaka

公表年月：2026 年 3 月